

『私の住む岡山市一宮の紹介・動物編』

第一学院高等学校岡山キャンパス 東文栄

岡山市一宮地区：

吉備高原に至る丘陵部中腹から、平野部に至る部分を範囲とし、南西部に吉備中山の東麓部を有する。

かつて備前国の一宮である吉備津彦神社の門前町であったことが、その地名の起源である。主にこの地域は隣接する津高地域とともに市域でも有名な白桃とマスカット・オブ・アレキサンドリアの産地として知られており、街道沿いにはこれら作物を生産する農家の直売所が点在している。特に白桃に関し芳賀清水域で採れるものにおいては清水白桃（しみずはくとう）の名で知られており、これは全国的にも高いブランド力を有している。

南部の吉備中山周辺部である一宮地区は、吉備路の一部で西端部に当たる。

地域南部では大型団地の造成や国道180号線周辺を中心に市街化・宅地化が進み、ベッドタウンとして人口が増加した。

一方で農家が多いことや山間部交通の不便さにより、旧岡山市域（平成の大合併以前における岡山市域。灘崎・御津・建部・瀬戸等を含まない地域）においては最も高齢化率の高い地域と言われている。

☆コウモリ

今年の夏、我が家で一つの事件が起きました！！我が家の周りにはたくさんのコウモリが毎日飛んでいます。時々家の中にも入ってくることがあり、網で捕まえて外へ逃がしていました。ある日、娘が家の中で糞を発見！なんだろうと思い、二日目。また、同じ場所に糞が！



何か怪しいと思い耳を澄ませると。カタカタカタと、物音が。それもクーラーの中から。深夜にも関わらずクーラーを分解し、発見。吹き出し口の下に2センチもない隙間にコウモリが！！それも一匹ではなくコウモリの家族が。親1匹と子供5匹。子供の体は毛がなくつるつるで柔らかく、体に翼を巻きつけていました。手のひらにちょこんと乗るぐらいの大きさで、歩くときにははねを広げてちょこちょこ歩きます。その姿は本当に可愛いです。無事全部のコウモリを逃がした後、気になっていろいろと調べてみました。



コウモリは鳥類に匹敵するほどの完全な飛行能力を持っている哺乳類です。超音波を出して飛び獲物を見つけます。わずかな隙間で生活することができ、集団で生活をします。一匹の親から五匹ぐらいの赤ちゃんを初夏に出産し、11月から3月にかけて冬眠をします。寿命は長く、数十年と生きるらしいです。赤ちゃんコウモリはママのおっぱいを吸って大きくなります。コウモリは吸血のイメージが強いですが、実際日本には、吸血コウモリはおらず、世界でも中南米にいる三種だけだそうです。コウモリは実は人にとってとても役立つ存在で、一晩で500~1000匹もの蚊・蛾などの虫をたべてくれて農業被害を防ぐのに役だつ存在です。また、コウモリは「富の象徴」ともいわれています。日本でも昔から家具や手ぬぐいなどの意匠にとり入れられていました。たぶん漢字の「蝙蝠」の蝠が福を連想されることから、中国の風水で豊かな富の象徴となっていることも理由のひとつとも言われています。家に住みつくと縁起が良い。2匹いるとさらに幸運を呼び込み、**5匹のコウモリは功名・福寿・健康・金運・結婚**を表すそうです。住家が気に入るとずっと住み続けるようです。

我が家は、とりあえずクーラーの外の隙間を紙などでつめて塞ぎました。次の日、心配で外を探してみると一匹もいませんでした。そして、しばらくして玄関の所に糞が！おそらく、わずかな隙間があるのでそこにいるんだろうなあと思いました。そして、そんなに我が家を気に入ってくれるなら嬉しいなと思い、そっと見守ることにしました。幸運が舞い込んでくるのを楽しみにして（笑）



コウモリ・蝙蝠・富の象徴
血は吸わないよ！

☆ヌートリア

近くの川にヌートリアを発見！！まだ、子供で体も小さく、のんびり日向ぼっこをしていました。岡山には、ヌートリアがとても多く、作物を食べるので農業に被害を与える生き物として小さい頃から知っていました。しっぽは、ネズミのようで大きく太くて長いです。悠々と川を泳ぐ姿は、少し不気味です。ただ、子供は可愛く憎めない姿をしています。ヌートリアは哺乳類の一種で別名・沼狸。日本には本来存在しない外来種です。特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律で指定第一次指定種に分類されています。



岡山・兵庫・島根の3県では2005年度に4500万円を超える被害に遭い、約3000頭を駆除したが個体数の減少には至っていないそうです。頭胴長40～60センチ、尾長30～45センチ、体重6～9キログラムの大型のネズミ目。季節を問わず繁殖し、年に2、3回出産をし、平均5匹の子を生みます。三日後くらいには成体と同じ餌を取り始めます。寿命は5～8年程度です。



ヌートリアは丈夫で育てやすく、柔らかい上質な毛皮が安価に入手できるため第二次世界大戦頃に**軍隊の防寒服として世界各国で飼育**されました。

日本では1939年にフランスから150頭が輸入され、飼育が奨励されました。第二次世界大戦終了戦後、毛皮の需要が激減したことに伴い飼育されていたものの**多くが放逐**されました。また、1950年代の毛皮ブームで本種の飼育が流行したが、その後の毛皮価格の暴落に伴い、この時も多数が野に放たれ、野生化しました。

これらの子孫が各地で定着し、アライグマと同様に野外繁殖が問題となっています。

人間の都合で輸入され、必要でなくなったら放逐され。

なのに、今は被害が多きからと駆除をされ。

私達人間の勝手さが生み出した問題に人間が悩まされているのが、とても滑稽に思えました。

植物や動物に罪はないと思います。結局、今問題になっている地球温暖化も原子力の問題も同じです。

私達はこれからの子供たちのために、自分たちの利益や快適さばかりでなく、もっと自然と協調しながら生きていくすべを本気で考えるべきだと私は思っています。

